

ベネズエラのクーデター反対 トランプは手を出すな!

4月30日早朝（現地時間）、ベネズエラで「暫定大統領」を僭称するグアイドがクーデターを起こしました。彼らは武装した一部の兵士らとクーデターを呼びかけ首都のラ・カルロタ空軍基地に押しかけましたが、軍は全く応じず失敗に終わりました。その後、彼らは街頭で暴動に移りました。私たちはベネズエラを血まみれの内戦に持ち込み、あるいは米軍の介入を引き起こそうとしたグアイドのクーデターを糾弾します。



米国は「暫定大統領」をかつて何度もクーデターを計画

ベネズエラでは1月23日に国会議長グアイドが突然「暫定大統領」になると宣言しました。驚いたことにこれを即日米国や欧州のいくつかの国が承認しました。しかし、ベネズエラにはれっきとしたマドゥーロ大統領がいます。このあとグアイドは「人道支援物資」や大規模停電を利用して何度もクーデターを準備します。これは米国の仕掛けた3度目のクーデター計画だったのです。

マドゥーロ大統領は独裁者？

マドゥーロ氏は昨年5月の選挙で7割近くの圧倒的支持で当選した正式の大統領です。米国は選挙が不当と非難しますが、投票率は46%で野党の一部が選挙をボイコットしただけです。ベネズエラ経済は困難な状態にあります。政府はCLAPという組織を作るなどして国民の7割以上に食料や薬を配給して生活を支えています。

暴力的で、破壊的なのはマドゥーロ政権ではなくグアイドの方です。彼は自分の国に米軍が侵攻するよう要求しているのです。



(就任式のマドゥーロ大統領)

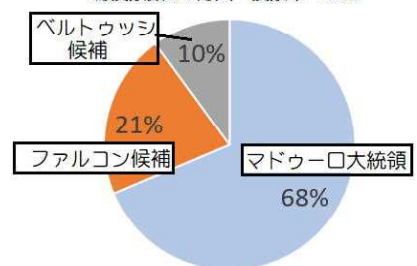
ベネズエラの危機は何が原因？

確かにベネズエラの経済は苦境にあります。原油埋蔵量が世界最大の国で食料品や物不足、ハイパーインフレが起っています。しかし、その原因はマドゥーロ政権ではありません。米国がマドゥーロ政権を認めず、経済制裁をしているから、ドル決済ができず、原油を売れない、食物や薬を輸入できない状態に追いやられているのです。国境を越えて買い出しに行く人々が「難民」と報じられています。飢えている、人道支援が必要だと言いながら、実際にベネズエラの人々を困窮させているのは米国なのです。その目的は人々を困らせることで、政府への不満を煽り立てることです。

こんな不当な干渉は許されません。世界中から「トランプはベネズエラから手を引け Hands Off Venezuela!」の声が起っています。“クーデターを仕掛けるな”の声を日本からも起こしましょう。

□ 激励先；在日ベネズエラ大使館 info@venezuela.or.jp

2018年5月大統領選挙の得票率
総投票数920万人 投票率46%



ライブ・イン・ピース☆9+25

TEL090-5094-9483

http://www.liveinpeace925.com Email info@liveinpeace925.com 20190503

私たちがマドゥーロ大統領とベネズエラ政府を支持する5つの理由

理由1 ニコラス・マドゥーロ氏は2018年5月の大統領選挙で選ばれた正式の大統領です。

○大統領選挙では950万人が投票し、68%がマドゥーロ氏を支持しました。「大統領選は不正」と宣伝されていますが、野党を含め選挙日程で合意した後で、米の指示で急進派がボイコットしただけです。選挙は穏健派野党も参加して公正に行われました。選挙監視を行った150人の専門家グループも平和的で公正な選挙と認めています。

●フアン・グアイド氏は何の法的根拠もない「自称暫定大統領」にすぎません。今年初めて20%の知名度しかなく、国民も知らない人物です。米は強引に承認しましたが、外国が勝手に大統領を選べるはずはありません。憲法違反で国際法違反です。

理由2 国内の平和と対話を求めているのがマドゥーロ大統領です。対立をおおるだけで、クーデターと米の軍事介入を辞さないのがグアイド氏です。

○マドゥーロ大統領はグアイド側に対話と国会選挙の繰り上げを提案しています。ローマ法王にも仲介を依頼しました。対立を自制し、国民が血を流すことのないように全力をあげています。

●グアイド氏はマドゥーロ辞任を繰り返し、対立を煽るだけです。衝突や流血を口実に米が軍事介入するのを待っているのです。

理由3 ベネズエラで人民の命と生活を守っているのがマドゥーロ大統領とその政府です。経済制裁と金融制裁でベネズエラ人の命と生活を脅かしているのが米政権です。その米と結託して物資の隠匿や投機で暴利をむさぼっている富裕層の利害を代表するのがグアイド氏なのです。

○米の経済制裁で食料・薬が不足する中、政府が組織するCLAP（食料配給機構）は600万世帯、人口の7割におよび、国民の生命と生活を支えています。

●インフレなどの経済困難は、物資隠匿や投機など反政府派による経済破壊活動、米欧の経済制裁によるものです。米は自ら危機を作り出しておいて、「人道支援」と称して介入を狙っています。

☆「人道支援」ならキューバのようにベネズエラ政府に渡すべきです。国連事務総長もマドゥーロ大統領を正式なベネズエラ政府代表と認め、国連、国際赤十字、カトリック団体等は米の「人道支援」への協力を拒否しています。

理由4 マドゥーロ大統領による独裁や民主主義の抑圧は事実ではありません。暴力や破壊活動への警察の取り締まりが歪められて報じられています。

○マドゥーロ大統領は、都市や農村でコミュニオン（共同体組織）を作り、住民の政治参加を発展させてきました。反政府の平和的デモなどを弾圧していません。

●グアイド氏らのグループがやってきたのは、平和的デモなどではなく、投石やバイクの暴走、殴る蹴るの暴行や商店の破壊などの暴力行為です。

理由5 マドゥーロ大統領は、チャベス元大統領のボリーバル革命を継承し発展させようとしています。米国はこれを敵視し、つぶそうとしてきました。これは内政干渉なのです。

○チャベス大統領は、1999年の大統領選で勝利し貧困や格差をなくすボリーバル革命を進めてきました。マドゥーロ大統領がこれを継承しています。

●米が、「ボルトン計画」という政権転覆計画を作成していることが昨年12月に暴露されました。マドゥーロ大統領の暗殺、合法的政府の打倒、暫定政府評議会の設置という3つのクーデター計画です。このシナリオに沿って政府転覆が企てられています。（2019年2月17日作成 ホームページ掲載）